



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

教科書の主題図における地誌学

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学附属高等学校 公開日: 2024-04-23 キーワード (Ja): 教科書, 社会科, 地理総合, 地誌学, スケール, ETYP: 教育実践, STYP: 高等学校, 地理 キーワード (En): 作成者: 栗山, 絵理 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学附属高等学校
URL	http://hdl.handle.net/2309/0002000360

教科書の主題図における地誌学

Regional geography in thematic maps of textbooks

地理歴史科 栗山 絵理

<要旨>

中等教育段階の生徒が学ぶ教科書において、地誌的な見方・考え方に通ずる単元主題図では、どのような地域を取り扱い、どのようなスケールで地域を捉えているのかを、中高の教科書を比較するという視点からまとめた。中高の地理の教科書では、ヨーロッパとアフリカに関する主題図が多用され、同一の教科書会社では同一の主題図の表題が散見される。中学校・高校の教科書における重複を削減し、高校の地理総合および地理探究では、マルチスケールの地誌的考察が深められるように教材を開発していく必要がある。

<キーワード> 教科書 社会科 地理総合 地誌学 スケール

1. はじめに

全国の高等学校で、2022年4月から『地理総合』が必修科目として導入された。中学校では、2021年4月から新課程が始まった。これにともない、中学校地理では世界地誌が分厚くなり、高校地理総合では「①地図やGIS、②国際理解と国際協力（グローバル）、③持続可能な地域づくり（防災・ESD）」のように、中等教育課程の社会科・地理歴史科の学習内容が一変した。実質的には、高校地理総合では、地誌的な学習内容が削減され、「生活文化の多様性と国際理解」という見方・考え方に姿を変えた。

中学校は義務教育課程であり、高校の地理総合は必修科目である。中等教育段階の生徒が学ぶ教科書において、地誌的な見方・考え方に通ずる単元主題図では、どのような地域を取り扱い、どのようなスケールで地域を捉えているのかを、中高の教科書を比較するという視点からまとめることに関心が高まり、本稿の執筆に至った。

2. 先行研究

浮田(1970)⁽¹⁾は、農業地理学の観点から地図の縮尺によって5つの段階に分けて地域のスケールを示した。それによれば、地図について最も「マクロな地図」は5,000万分の1（小縮尺）、最も「ミクロな地図」は5,000分の1（大縮尺）として、同じ米作の分布や立地を考えるにも、マクロからミクロまで、さまざまなスケールでの捉え方があり得ることを指摘した。さらに「スケール」とは、「観点の精粗」であるとし、巨視的（makroskopisch）・微視的（mikroskopisch）を意味するとした。

そして後藤(1998)⁽²⁾は、人文地理学の観点から「地域スケールと地域区分との関係について述べると、地域

スケールがマクロになればなるほど、一般的には区分された地域内部の多様性が増加し、ミクロになればなるほど地域内部の等質性が増加する」と述べている。

森川(1997)⁽³⁾は、19世紀から20世紀（特に後半）のドイツの地理学界における地誌学の動向をまとめている。その中で、プロトフォーゲルによる地域概念（図1）を紹介し、「実質地域（現実の地域）」の他に、「活動地域」と「知覚地域」が加えられていることを特徴として指摘している。

「実質地域」には、「等質地域」や「機能地域」という見方・考え方も含まれ、それぞれの事例として前者は「人口集積地域（人口密度・集落密度の高い地域）」、後者は「労働市場（通勤範囲）」とまとめられている。「活動地域」は、「経済活動地域」と「政治行政地域」に区別され、前者はマーケティング地域、後者は「行政地区」とされている。「認知地域」は、「メンタルマップ」や「地域の集成的イメージ」が主な要素となっている。さらに、「認知地域」には「アイデンティティ地域」も含まれる。

こうした先行研究は、教科書分析とはかけ離れているものの、伝統的な地誌学的なスケールの取り扱いについて考察する際に、大いに参考になるものである。

3. 調査の方法

中学校『社会（地理）』の教科書（全4社：教育出版・帝国書院・東京書籍・日本文教出版）における「世界の諸地域」の単元に掲載された主題図の表題と地域スケールを表にまとめた。さらに、高等学校『地理総合』の教科書（全5社7種：実教出版・第一学習社・帝国書院・東京書籍・二宮書店）における「生活文化の多様性と国際理解」の単元に掲載された主題図の表題と地域スケール

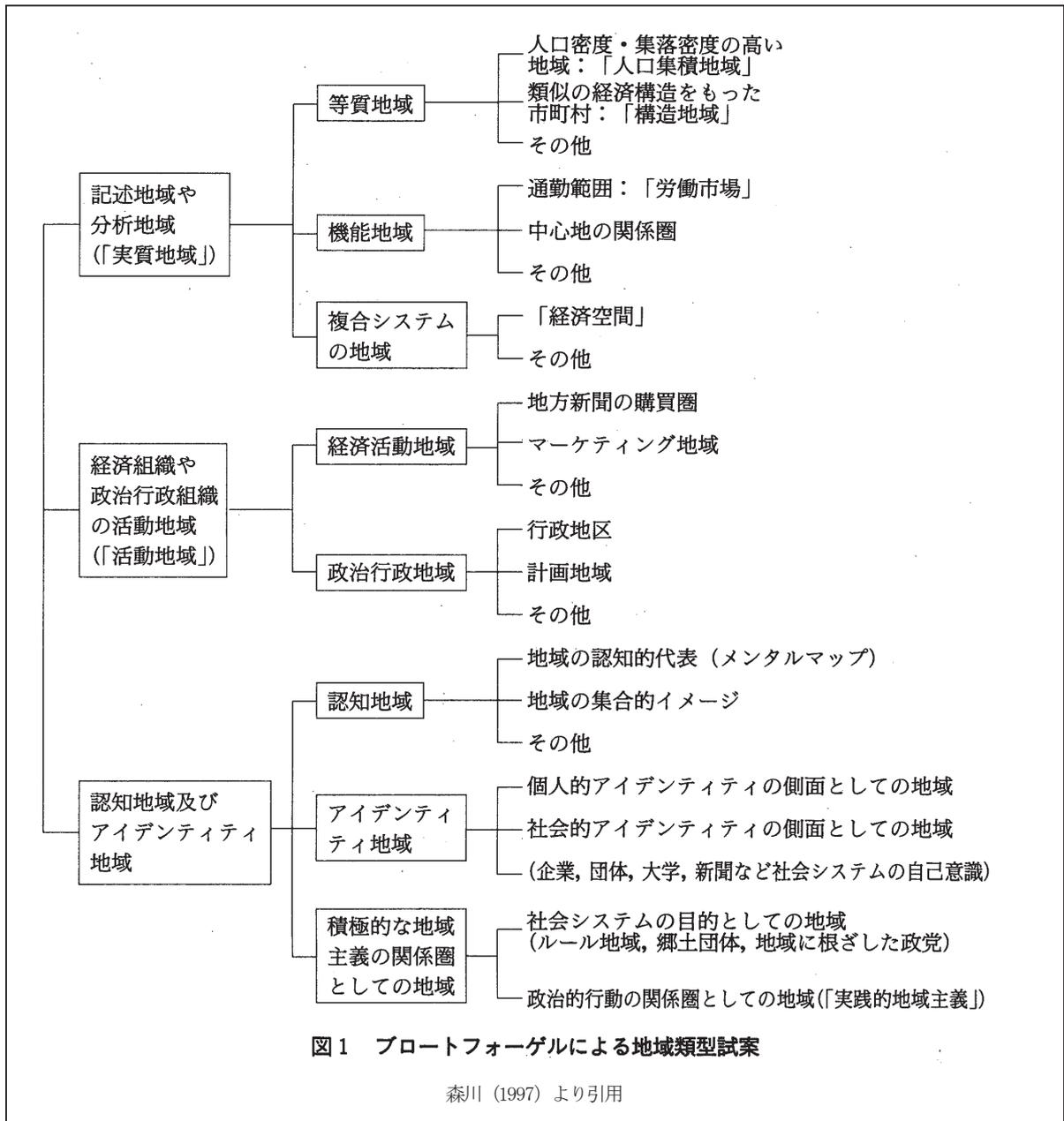


図1 プロットフォージェルによる地域類型試案

森川 (1997) より引用

ルを表にまとめた。そして、両者で取り扱われる地域とそのスケールの相違点をまとめて言及した。

4. 中等教育課程の教科書における主題図について

まず、中学校社会地理の4社の教科書における主題図の表題とスケールを図2～5にまとめた。中学校の教科書は、教科書会社に関わらず、「アジア州」「ヨーロッパ州」「アフリカ州」「北アメリカ州」「南アメリカ州」「オセアニア州」の州別のスケールの主題図が過半数を占めている。4割程度を占めている「その他」のスケールとしては、中華人民共和国 (中国)・アメリカ合衆国 (アメリカ)・カナダなどの各国別または世界のスケールが散見される。

州別にみると、ヨーロッパ州が他よりも手厚いものな

ど、教科書会社によって特色が異なる。なお、いずれの教科書も、旧課程との違いは、アフリカ州の取り扱いが大きくなったことである。これは、「世界の諸地域」という單元において、54か国もの国々を含む一大州について、これまで高校の地理などで取り扱っていたものが、中学校の地理に分担されたことの現れである。

高校『地理総合』の教科書5社7種の教科書における主題図の表題とスケールを表1～7にまとめた。中学校の教科書と異なる点は、州別のスケールというまとまりから解放され、各社の編集による地域の捉え方が大きく反映しているとも考えられる。主題図の数は教科書会社によって大きく異なる。

表1 実教出版「地総702」(N = 96)

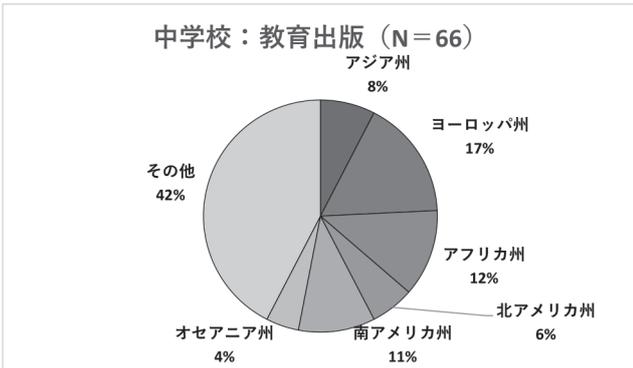


図2 教育出版の「世界の諸地域」に掲載された主題図

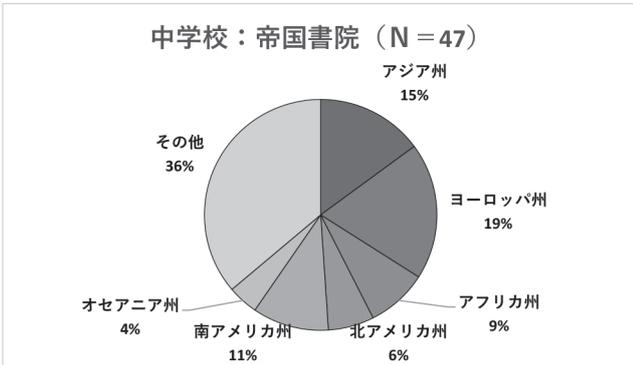


図3 帝国書院の「世界の諸地域」に掲載された主題図

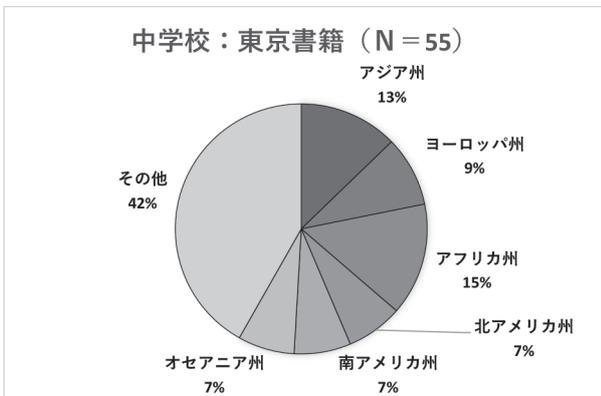


図4 東京書籍の「世界の諸地域」に掲載された主題図

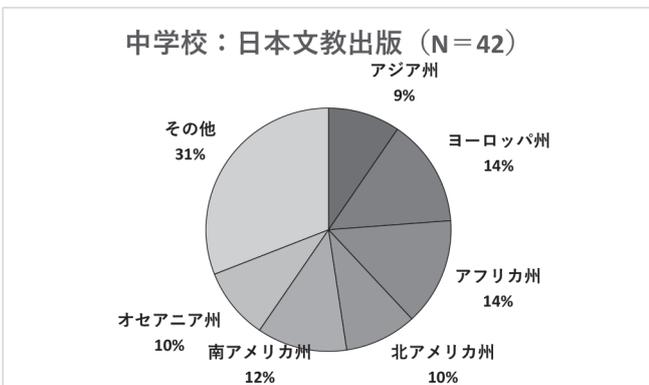


図5 教育出版の「世界の諸地域」に掲載された主題図

掲載頁	主題図の表題	地域のスケール
43	一人あたりGNI	世界
43	国際分業	北半球
44	清の最大領域と周辺諸地域	東アジア・ムガル帝国・ビルマ・ジャム・ベトナム
45	地図(東アジア)	東アジア・世界
46	黄土台地と主な遺跡	黄土台地周辺
46	隋唐時代の東アジア	ユーラシア大陸東部
46	ユーラシアを結ぶ3つの交易路	ユーラシア大陸東部
47	19世紀末の各国の租借地	東アジア沿岸部
47	アジア太平洋戦争(太平洋戦争)	東アジア・太平洋
48	中国の人口密度	中国
49	中国の民族分布	中国
51	中国・モンゴルの農業分布図	中国・モンゴル
52	中国の鉱工業分布	中国
53	「一帯一路」政策における陸路と海路	東半球
57	東アジアにおける陸性雨の状況	東アジア・東南アジア
58	東南アジアの植民地化	東南アジア
59	地図(東南アジア)	東南アジア・世界
60	東南アジアの写真的位置	東南アジア
61	12世紀ごろの海域世界	東半球かつ北半球
62	農業分布	東南アジア
64	宗教の流入	東南アジア・周辺地域
65	言語分布	東南アジア
66	鉱工業分布	東南アジア
67	ASEAN諸国における1人あたりGNI	東南アジア
70	世界の宗教分布と世界人口に占める主な宗教人口の割合	世界
72	戦後の南アジア	南アジア
73	地図(南アジア)	南アジア
74	19世紀なごころの南アジア	南アジア
74	宗教分布	南アジア
75	カシミール地方	インド・中国・パキスタン
76	農業分布	南アジア
77	鉱工業分布	南アジア
80	ムスリム商人の主な交易路と交易品	ユーラシア大陸
81	地図(北アフリカ・西アジア)	北アフリカ・西アジア
82	6世紀のアラビア半島	アラビア半島
82	イスラーム帝国の発展	アラビア半島・西アジア・中央アジア・地中海沿岸地域
83	オスマン帝国の発展(16~17世紀)	アラビア半島・西アジア・地中海沿岸地域
83	オスマン帝国の解体	地中海沿岸地域
83	第一次世界大戦後の西アジア	アラビア半島・西アジア・地中海沿岸地域
84	西アジア・北アフリカの宗教と民族	北アフリカ・西アジア・イスラエル拡大
84	世界のムスリム人口	世界
86	西アジア・北アフリカの資源	北アフリカ・西アジア
88	中東内戦	リビア・イラク・シリア・ペルシャ湾岸
89	パレスチナの交通図	イスラエル周辺
92	世界の民族分布と世界人口に占める使用言語別の人口割合	世界
94	ケルンの変化(ローマ時代・中世)	ケルン市街
94	中世ヨーロッパの都市と交易路	ヨーロッパ
95	地図(ヨーロッパ)	ヨーロッパ
96	ローマ帝国の変化	ヨーロッパ・地中海周辺
96	ヨーロッパの宗教分布(16世紀なかば)	ヨーロッパ
97	イギリス帝国の地図(1866年)	世界
98	ヨーロッパの宗教	ヨーロッパ
98	ヨーロッパの言語	ヨーロッパ
99	EU加盟国・ユーロ導入国	ヨーロッパ
100	EU加盟国における1人あたりGNI	ヨーロッパ
101	スイスにおける州別の主要言語	スイス
102	農業分布	ヨーロッパ
104	鉱業分布	ヨーロッパ
105	ヨーロッパ西部地域における航空機の製造と分業	ヨーロッパ
106	領土の変遷	ロシア
107	地図(ロシア・周辺諸国)	ロシア・周辺
108	ソ連時代の民族分布と構成割合	旧ソ連
108	CISを構成する国	旧ソ連
110	農業分布	旧ソ連
111	鉱工業分布	旧ソ連
112	アフリカにおける交易(13~15世紀)	アフリカ・アラビア半島
112	大西洋における三角貿易(18世紀)	大西洋周辺地域
112	アフリカ諸国の独立	アフリカ
113	地図(アフリカ)	アフリカ
114	ヨーロッパ諸国のアフリカ侵略	アフリカ
114	公用語分布	アフリカ
115	農業分布	アフリカ
116	モノカルチャー経済	コートジボワール・ガーナ・ナイジェリア・エチオピア
117	鉱産資源の分布	アフリカ
118	1日1.9ドル未満で生活する人々の割合	アフリカ
118	ジニ係数(所得格差)	アフリカ
118	識字率(15歳以上)	アフリカ
118	乳児死亡率(1000人あたり)	アフリカ
120	アフリカの国境と民族分布	アフリカ
122	移民の流れ	世界
124	南北戦争と大陸横断鉄道	アメリカ合衆国
125	地図(アメリカ合衆国・カナダ)	アメリカ合衆国・カナダ
126	アメリカ合衆国の移民の歴史	アメリカ合衆国
128	農業分布	アメリカ合衆国・カナダ
130	鉱工業分布	アメリカ合衆国・カナダ
132	ラテンアメリカの諸文明	ラテンアメリカ
133	地図(ラテンアメリカ)	ラテンアメリカ
134	ラテンアメリカの独立と旧宗主国	ラテンアメリカ
134	ラテンアメリカ諸国の人種・民族構成と主な言語	ラテンアメリカ
136	農業分布	ラテンアメリカ
138	鉱工業分布	ラテンアメリカ
140	太平洋地域の分割(19世紀末)	オセアニア
141	地図(オセアニア)	オセアニア
144	オーストラリアの農業分布	オーストラリア・ニュージーランド
145	オーストラリアの鉱工業分布	オーストラリア・ニュージーランド
146	ニュージーランドの農業分布	ニュージーランド

表2 第一学習社「地総706」(N = 20)

掲載頁	主題図の表題	地域のスケール
44	アジアのモンスーンと降水量	モンスーンアジア
45	世界の年平均気温と年降水量	世界
46	世界の気候区分と海流	世界
54	世界の伝統的衣服の衣料圏	世界
62	世界の主食地域と農産物の原産国	世界
66	茶の生産量と消費量	東半球
66	茶の伝播と呼び方の違い	東半球
68	世界の農業地域	世界
70	白身魚のフライが届くまで	太平洋
73	世界の人口密度	世界
74	河川がつくる地形(模式図)	架空の沖積平野
76	伝統的な住居に使用される素材の分布図	世界
78	高度経済成長期の東京湾岸の豊洲地区	豊洲(1/25000「東京南部」,1966年)
80	産業が発展した社会の特徴(1人あたり産業付加価値額・5歳未満児死亡率・都市人口の割合)	世界
86	日本の主な地場産業の分布と都道府県別伝統工芸品数	日本
90	世界の宗教分布	世界
96	世界で話されている主な言語	世界
97	ラテンアメリカの領土変遷	ラテンアメリカ
99	無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」	日本
101	オリンピック開催都市と参加国・地域の推移	世界・ヨーロッパ拡大

表3 東京書籍「地総701」(N = 23)

掲載頁	主題図の表題	地域のスケール
56	各国・地域で栽培面積が最も広い農産物	世界
58	「肉」といえば何をさすか	日本
58	明治時代に農耕に使われていた牛馬の分布	日本
59	「かたつむり」の方言分布の変化(1960年ごろ・2010年ごろ)	日本
61	世界の宗教分布と宗教人口	世界
62	世界の言語分布	世界
63	西アフリカの言語の境界と国境	サヘル
63	おもな旧宗主国とアフリカ各国の公用語	アフリカ・イギリス・ベルギー・フランス・スペイン・ポルトガル
64	稲作の北限の変化	北海道
65	アジアの降水パターン	モンスーンアジア
67	世界各地のおもな食べ物とその調理例、おもな作物の原産地と広がり	世界
104	中国の自治区と経済特区 外国投資の地域別受け入れ額	中国
105	地図(特集地域:中国・シェンチェン)	東アジア
107	地図(特集地域:韓国)	朝鮮半島・周辺諸国
109	地図(特集地域:トルコ)	西アジア・南アジア・中央アジア・周辺諸国
109	イスタンブールと海峡	イスタンブール周辺地域
110	モスクワ公国からソ連までの領土の拡大(1533年・1796年・1953年)	旧ソ連域
111	地図(特集地域:ロシア)	ロシア・周辺諸国
112	ニューヨーク市の人種・民族の分布	ニューヨーク州・ニュージャージー州
113	地図(特集地域:ニューヨーク市)	北アメリカ
114	標高によって異なる植生と農作物	アンデス山脈
115	ラテンアメリカ諸国の民族と公用語	ラテンアメリカ
115	地図(特集地域:アンデス高地)	ラテンアメリカ

教科書の主題図における地誌学

表4 帝国書院「地総703」(N = 66)

掲載頁	主題図の表題	地域のスケール
78	オセアニアの範囲	オセアニア州
78	オーストラリアとその周辺の自然環境	オーストラリア・ニュージーランド
79	オセアニアの気候区分	オーストラリア・ニュージーランド
79	オーストラリアの人口密度	オーストラリア
80	オセアニアの農業地域	オーストラリア・ニュージーランド
81	オーストラリアの鉱産資源	オーストラリア
82	東南アジアの気候区分	東南アジア
83	東南アジアの交易と宗教の伝播	東南アジア・インド南部
83	東南アジアの言語と宗教	東南アジア
84	東南アジアの農業地域	東南アジア
86	スペインの言語分布	スペイン
87	世界の公用語と言語別人口	世界
87	スイスの言語分布	スイス
89	世界の宗教の分布	世界
90	各国のイスラムの割合とイスラームの伝播	中央アジア・西アジア・北アフリカ
91	中央アジア・西アジア・北アフリカの言語分布	中央アジア・西アジア・北アフリカ
93	中央アジア・西アジア・北アフリカの農業	中央アジア・西アジア・北アフリカ
94	中央アジア・西アジア・北アフリカの油田の分布と各国の1人あたりのGNI	中央アジア・西アジア・北アフリカ
95	ペルシャ湾岸の産油国で働く外国人労働者の送金先	西アジア・南アジア
96	南アジアの宗教分布	南アジア
97	南アジアの言語分布とインドの言語別人口構成	南アジア
98	南アジアの農業地域	南アジア
100	南アジアの鉱工業	南アジア
101	インドの1人あたりの州内純生産額と人口移動	インド
102	ラテン系の人々とアフリカ系の人々の移動	西半球
102	ヨーロッパ諸国の植民地だった歴史をもつ国・地域	世界
103	冷戦時代の軍事同盟	北半球
104	ラテンアメリカ各国の旧宗主国と奴隷の移動	ラテンアメリカ
105	ラテンアメリカの主な言語と人種・民族	ラテンアメリカ
107	ラテンアメリカの農業地域	ラテンアメリカ
107	標高によって異なる植生の農作物	ペルー付近
109	各国の1人あたりのGNIと主な国の累積債務額	ラテンアメリカ
110	アフリカ諸国の主な使用言語	アフリカ
110	現在のアフリカの宗教	アフリカ
111	1914年のアフリカの植民地と現在の国境	アフリカ
111	人為的国境によって分断された民族集団の居住地	ヴィクトリア湖北東岸
112	アフリカの植生と主な商品作物	アフリカ
113	アフリカ諸国の経済を支える輸出品	アフリカ
113	アフリカの主な鉱産資源	アフリカ
115	アフリカ諸国の貧困率	アフリカ
115	アフリカ諸国の1人あたりGNIと電力受給率	アフリカ
116	かつてのソビエト社会主義連邦(ソ連)の範囲	旧ソ連
117	ロシアの民族分布	旧ソ連
118	ロシアと周辺諸国の農業	旧ソ連
119	ロシアと周辺諸国の鉱産資源	旧ソ連
121	世界の農業地域と主な作物の原産地	世界
123	世界の国・地域における1人あたりの工業付加価値額	世界
123	世界の国・地域における1人あたりの国民総所得(GNI)	世界
126	スマートフォンの普及率と携帯端末の基本ソフトウェア(OS)別割合	世界
127	アメリカ合衆国の主な鉱工業	アメリカ合衆国・カナダ
128	穀物メジャーの一つ、カーギル社が進出している国・地域	世界
129	アメリカ合衆国の農業地域	アメリカ合衆国・カナダ
131	アメリカ合衆国の人種・民族分布	アメリカ合衆国
132	東アジアの人口密度	東アジア
133	中国の経済特区と外国投資の受け入れ	中国
135	中国の経済格差と人口移動	中国
136	韓国の都市人口	韓国
138	EU加盟国の拡大	ヨーロッパ
139	ヨーロッパのキリスト教の宗派と分布	ヨーロッパ
139	ヨーロッパの言語の分布	ヨーロッパ
140	ヨーロッパの農業	ヨーロッパ
141	農家1戸あたりの農業生産額	ヨーロッパ
142	エアバス社の航空機の製造における国際分業	ヨーロッパ
142	ヨーロッパ中心部の工業	ヨーロッパ
143	ヨーロッパの経済格差と外国人の移動	ヨーロッパ
144	アメリカ合衆国の特徴を地図にまとめた例	アメリカ合衆国

表5 帝国書院「地総707」(N = 50)

掲載頁	主題図の表題	地域のスケール
72	経済発展による生活文化の変化 ー東アジアー	中国・韓国
75	中国の民族分布	中国
77	中国の農業地域	中国
77	中国の年降水量	中国
79	中国の人口密度	中国
81	中国の経済格差と人口の移動	中国
83	韓国の都市人口	韓国
84	他地域との結びつきが生活文化に与えきた影響 ー東南アジアー	タイ・インドネシア
87	季節による風向と降水量の変化	モンスーンアジア
89	東南アジアの言語と宗教	東南アジア
89	東南アジアの交易ルートと主な交易品	東南アジア・インド南部
91	東南アジアの農業地域	東南アジア
93	ASEAN諸国の1人あたりのGNIと経済成長	東南アジア
94	ヒンドゥー教と生活文化の関わり ーインドー	インド
97	南アジアの言語分布とインドの言語別人口構成	南アジア
99	南アジアの農業	南アジア
101	インドの地域別出生率と主な州の識字率	インド
102	乾燥地域で生まれてきた生活文化の変化 ー中央アジア・西アジア・北アフリカー (トルコ・エジプト)	中央アジア・西アジア・北アフリカ
105	中央アジア・西アジア・北アフリカの農業	中央アジア・西アジア・北アフリカ
107	各国のイスラムの割合とイスラームの伝播	中央アジア・西アジア・北アフリカ
109	中央アジア・西アジア・北アフリカの油田の分布と各国の1人あたりのGNI	中央アジア・西アジア・北アフリカ
110	植民地支配の歴史と生活文化の変化 ーサハラ以南アフリカー (エチオピア・南アフリカ共和国)	サハラ以南アフリカ
113	1914年のアフリカ	アフリカ
113	アフリカ諸国の主な使用言語	アフリカ
114	アフリカの植生と主な商品作物	アフリカ
115	アフリカ諸国の経済を支える輸出品	アフリカ
118	伝統の継承と生活文化の関わり ーヨーロッパー (ドイツ・ギリシャ)	ヨーロッパ
121	ヨーロッパのキリスト教の宗派の分布	ヨーロッパ
123	ヨーロッパの農業	ヨーロッパ
125	ヨーロッパ中心部の工業	ヨーロッパ
127	EU加盟国の拡大	ヨーロッパ
127	ヨーロッパの経済格差と外国人の移動	ヨーロッパ・トルコ・アルジェリア・モロッコ
128	寒冷な気候と生活文化に見られる工夫 ーロシアー	ロシア
131	ロシアと周辺諸国の主な鉱産資源	ロシア
133	ロシアと周辺諸国の農業	旧ソ連
134	産業技術の発展と生活文化の関わり ーアメリカ合衆国ー	アメリカ合衆国
137	アメリカ合衆国のさまざまな民族と居住地	アメリカ合衆国
139	アメリカ合衆国の農業地域	アメリカ合衆国
141	アメリカ合衆国の鉱工業	アメリカ合衆国
142	開発の歴史と生活文化の関わり ーラテンアメリカー (メキシコ・ペルー)	ラテンアメリカ
145	ラテンアメリカの主な言語と人種・民族	ラテンアメリカ
146	標高によって異なる植生と農作物	ペルー付近
147	ラテンアメリカの農業地域	ラテンアメリカ
149	各国の1人あたりのGNIと鉱産資源の分布	ラテンアメリカ
150	結びつきの変化がもたらす生活文化への影響 ーオセアニアー (オーストラリア・ニュージーランド)	オセアニア
153	オセアニアの地域区分と主な国の国旗	オセアニア
155	オセアニアの農業地域	オーストラリア・ニュージーランド
157	オーストラリアの鉱産資源	オーストラリア
158	生活文化の多様性と国際理解 ー追究事例ー	世界
160	楽しい海外旅行を計画しよう!	世界

教科書の主題図における地誌学

表6 二宮書店「地総704」(N = 75)

掲載頁	主題図の表題	地域のスケール
89	本章で取り上げる地域	世界
90	上海の市街図	上海市街
91	東アジアの高速鉄道網	東アジア
91	中国とヨーロッパを結ぶ国際貨物列車の主なルート	ユーラシア大陸
92	東アジアの気候区分	東アジア
94	中国の鉱工業地図	中国
95	中国の人口密度図	中国
95	中国の1人当たりの省別総生産 (GDP)	中国
96	韓国の工業地域	韓国
98	「一帯一路」構想図	ユーラシア大陸
100	バンコクの位置図	バンコク市街
101	東南アジアの宗教分布	東南アジア
102	東南アジアの民族分布と華人分布	東南アジア
104	東南アジアの農業	東南アジア
105	東南アジアの鉱工業	東南アジア
106	日本の自動車会社の生産拠点	東南アジア
106	ASEANと近隣諸国の経済連携協定	東南アジア・日本・中国・韓国・オーストラリア・ニュージーランド
108	ガンジス川の流域地図	ガンジス川流域
109	南アジアの気候区分	南アジア
110	南アジアの農業分布	南アジア
111	南アジアの宗教	南アジア
111	南アジアの言語	南アジア
112	インドの自動車工業の分布	インド
113	インド北部の地下水の使用状況	インド北部
114	イスタンブールの位置図	イスタンブール周辺
115	ムスリムの分布とメッカの方向	世界
116	北アフリカ・西アジア・中央アジアの農業	北アフリカ・西アジア・中央アジア
118	北アフリカ・西アジア・中央アジアのエネルギー資源分布とパイプライン網	北アフリカ・西アジア・中央アジア
119	西アジアと周辺諸国の1人当たりGDP (国内総生産)	西アジア・中央アジア・リビア・エジプト・スーダン
120	西アジア周辺の言語分布	西アジア・中央アジア
121	イスラエルとパレスチナの位置図	イスラエル
122	ブルキナファソとその周辺の気候区分	ブルキナファソ・周辺諸国
123	アフリカの気候区分	アフリカ大陸
124	アフリカの農業分布	アフリカ大陸
125	アフリカの言語地図	アフリカ大陸
125	アフリカの鉱産資源	アフリカ大陸
127	サハラ砂漠の面積変化 (現在・7000~8000年前・16000~20000年前)	アフリカ大陸
127	チャド湖の湖面面積の縮小	チャド湖周辺
128	バリ市内の建物の建築年	バリ市街
129	EUの拡大	ヨーロッパ
130	ヨーロッパの気候区分	ヨーロッパ
131	ヨーロッパの農業地域区分	ヨーロッパ
132	EUの工業地域	ヨーロッパ
133	シェンゲン協定参加国	ヨーロッパ
133	ヨーロッパと周辺地域の人口密度	ヨーロッパ
134	ヨーロッパの宗教分布	ヨーロッパ
135	ヨーロッパの言語分布	ヨーロッパ
135	スイスの言語地図	スイス
136	EUと周辺諸国の地域別1人当たり域内総生産	ヨーロッパ
136	EUと周辺諸国の地域別雇用率	ヨーロッパ
137	EU離脱の是非を問う国民投票の地域別結果(カルトグラム)	イギリス
138	ロシアと周辺諸国の年平均気温分布	ロシア・ベラルーシ・ウクライナ・中央アジア
139	シベリア鉄道のルート	ロシア・モンゴル・中国
140	ロシア西部の小麦生産地分布	ロシア・周辺地域
141	ロシアの鉱工業と経済特区の分布	ロシア
142	ロシアの連邦構成主体別人口自然増加率	ロシア
143	アムール川と親湖のつながり	アムール川流域・親湖湖流域
144	ニューヨークの民族集団分布	ニューヨーク市
145	北アメリカへの植民	北アメリカ
146	アメリカの民族集団	アメリカ合衆国
147	カナダの言語別人口	カナダ
148	アメリカとカナダ周辺の地形	北アメリカ大陸
149	アメリカとカナダ南部の農牧業地帯	アメリカ合衆国
150	アメリカ・カナダ南部の資源と産業	アメリカ合衆国・カナダ
151	USMCAを構成する3か国の比較	アメリカ合衆国・カナダ・メキシコ
152	地球儀ソフトでみたりオデジャネイロ	リオデジャネイロ市街
153	ラテンアメリカの植民地図	ラテンアメリカ
154	ラテンアメリカの農業	ラテンアメリカ
155	アンデス山脈西側斜面の標高別栽培植物と牧畜	アンデス西岸
156	ラテンアメリカの鉱産資源分布	ラテンアメリカ
157	太平洋同盟とメルコスール	ラテンアメリカ
158	シドニー周辺の土地利用	シドニー市街
159	オセアニアの植民地図	オセアニア
160	オーストラリアとニュージーランドの農牧業	オーストラリア・ニュージーランド
160	オーストラリアの鉱業	オーストラリア

表7 二宮書店「地総705」(N = 37)

掲載頁	主題図の表題	地域のスケール
58	熱帯の分布と雨温図	世界
60	乾燥帯の分布と雨温図	世界
62	温帯の分布と、大陸の東岸・西岸の北緯35～40度付近の都市の雨温図	北半球
63	大陸西岸の小麦、東岸の米の食文化の分布	ユーラシア大陸・アフリカ大陸北半分
64	亜寒帯・寒帯の分布と雨温図	世界
65	ロシアの植生	ロシア
74	南アジアの農業	南アジア
75	南アジアの地形と、モンスーンによる降水量の分布	南アジア
78	中国の経済特区・経済技術開発区	中国
81	中国の行政区別の1人当たりの域内総生産	中国
81	「一帯一路」構想のルート	ユーラシア大陸・アフリカ大陸北半分
83	日本のある自動車企業の東南アジアでの国際分業	東南アジア
85	東南アジアへの日本企業の進出	東南アジア
94	仏教の伝播	アジア
96	18世紀のヨーロッパ諸国の植民地	南北アメリカ大陸
96	キリスト教徒の分布と文派の歴史	世界
99	イスラーム圏と乾燥帯の分布	東半球の大陸部
100	西アジア・中央アジアのおもな油田と各国の1人当たりの国内総生産	中央アジア・西アジア
101	イスラエルとパレスチナの位置図	イスラエル
104	大西洋における三角貿易	大西洋周辺
105	ラテンアメリカの公用語と人種・民族構成	ラテンアメリカ
107	鉱産資源の分布	オーストラリア
112	シェンゲン協定の連携国	ヨーロッパ
113	EUの拡大過程	ヨーロッパ
113	ヨーロッパの言語と民族分布	ヨーロッパ
113	ヨーロッパの宗教分布	ヨーロッパ
114	国際分業による航空機の製造	ヨーロッパ
114	ヨーロッパの工業地域	ヨーロッパ
115	ヨーロッパの伝統的な農業地域区分	ヨーロッパ
116	ヨーロッパの地域別1人当たり域内生産から見た経済格差	ヨーロッパ
117	EUへの国際移民と各国の外国人の割合	ヨーロッパ
117	EU加盟国で行われた、加盟への世論調査	ヨーロッパ
118	アメリカの州名の起源	アメリカ合衆国
119	アメリカの人種・民族構成の地域差	アメリカ合衆国
121	アメリカの農業地域	アメリカ合衆国
121	アメリカの工業地域	アメリカ合衆国
121	シリコンヴァレーへの各産業の分布	サンノゼ

5. 分析

図6には中学校社会地理の「世界の諸地域」における地域別主題図の割合をまとめた。図7には高校地理総合の「生活文化の多様性と国際理解」における地域別主題図の割合をまとめた。中学校では、州別の学習が主体であり、行政区分に基づく地域の捉え方が中心である。州別では、ヨーロッパ州・アフリカ州・アジア州の順番で取り扱いの割合が大きい。

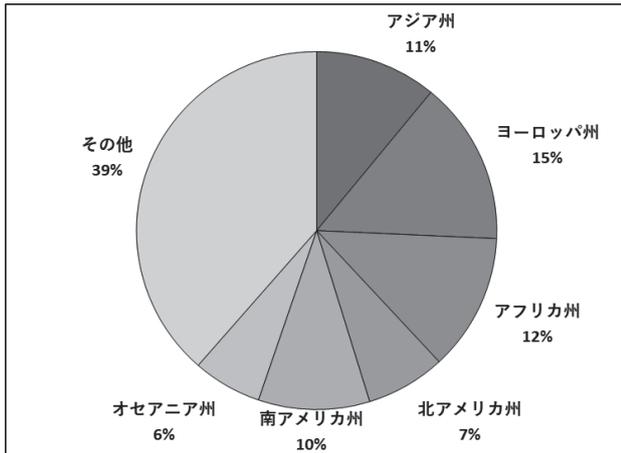


図6 中学校社会の教科書の地域別主題図 (n = 210)

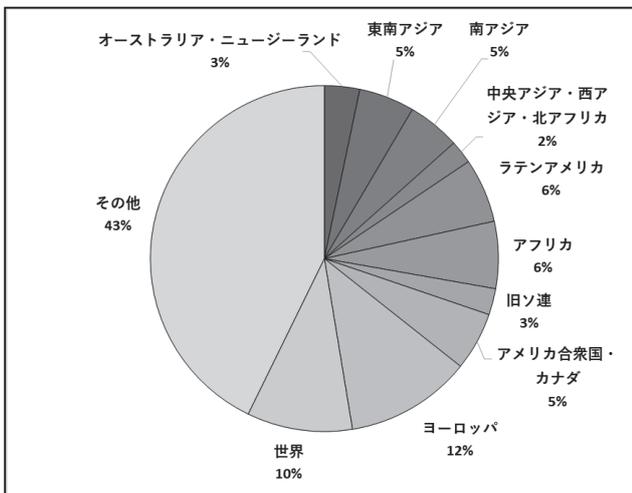


図7 高校地理総合の教科書の地域別主題図

(n = 210)

高校の教科書では、アジアは東南アジア・南アジアなどに細分化されてそれぞれ5%ずつであった。アメリカ大陸周辺についても、「ラテンアメリカ」「アングロアメリカ」といった文化的な地域区分に基づく主題図の範囲が散見された。そして、ヨーロッパは12%と地域別では最大の割合を占め、次いで世界スケールでの地域間比較も多くなっている。

中学校では、地球上の位置などの基本的な地域のまと

まりに基づく世界の地誌的な学習が中核となり、中でもヨーロッパ州とアフリカ州の学習が欠かせない要素となっている。中学地理の主題図の表題としては、「ヨーロッパ州の地勢と国々・ヨーロッパの気候・ヨーロッパの主な言語・ヨーロッパの主な宗教・ヨーロッパの統合の進展・EUと周辺各国の一人当たり国民総所得・ヨーロッパの農業・西ヨーロッパに集まる外国人労働者・ヨーロッパの資源と工業」「アフリカの地勢と国々・アフリカの気候区分・アフリカの国々の独立・アフリカの農業・アフリカの主な鉱産資源・アフリカ各国の公用語」(教育出版)、「ヨーロッパ州の自然・ヨーロッパのキリスト教の宗派の分布・ヨーロッパの言語の分布・EU加盟国の拡大・ヨーロッパの農業地域・エアバス社の航空機の製造における国際分業・ヨーロッパの主な工業地域・ヨーロッパ諸国における平均年収と外国人の移動」「アフリカ州の自然・主な使用言語とアフリカ～ヨーロッパ間の航空路・アフリカの主な鉱産資源・総人口に占める栄養不足の人口の割合」(帝国書院)などである。教科書会社の違いによって、主題図の表題の表現は差異があるものの、地域ごとに内容は類似している。

一方、高校地理総合の教科書においても、ヨーロッパとアフリカをテーマにした主題図の比重は大きい。高校地理総合の主題図の表題としては、「ヨーロッパの気候区分・ヨーロッパの農業地域区分・EUの工業地域・シェンゲン協定参加国・ヨーロッパと周辺地域の人口密度・ヨーロッパの宗教分布・ヨーロッパの言語分布・スイスの言語地図・EUと周辺諸国の地域別1人当たり域内総生産・EUと周辺諸国の地域別雇用率・EU離脱の是非を問う国民投票の地域別結果(カルトグラム)」「ブルキナファソとその周辺の気候区分・アフリカの気候区分・アフリカの農業分布・アフリカの言語地図・アフリカの鉱産資源・サハラ砂漠の面積変化(現在・7000～8000年前・16000～20000年前)・チャド湖の湖面面積の縮小」(二宮書店704)、「EU加盟国の拡大・ヨーロッパのキリスト教の宗派と分布・ヨーロッパの言語の分布・ヨーロッパの農業・農家1戸あたりの農業生産額・エアバス社の航空機の製造における国際分業・ヨーロッパ中心部の工業・ヨーロッパの経済格差と外国人の移動」「アフリカ諸国の主な使用言語・現在のアフリカの宗教・1914年のアフリカの植民地と現在の国境・人為的国境によって分断された民族集団の居住地・アフリカの植生と主な商品作物・アフリカ諸国の経済を支える輸出品・アフリカの主な鉱産資源・アフリカ諸国の貧困率・アフリカ諸国の1人あたりGNIと電力受給率」(帝国書院703)な

どであり、同一の教科書会社では、とりわけヨーロッパについて、中学校と高校の教科書に同一の主題図の表題（上記下線部）が散見される。

6. 今後の展望

中等教育課程の教科書における地誌的な見方・考え方に通ずる単元の主題図では、ほとんど全てが最も「マクロな地図」であるとされる5,000万分の1以上の小縮尺で示されている。そして、後藤(1998)にもあるように、「地域スケールがマクロになればなるほど、一般的には区分された地域内部の多様性が増加」するのであって、教科書では主題図で切り取られた範囲の地域内部の多様性を学び得ることが学習の目的となっている。一方で、中学校の教科書における主題図からは、静態地誌的な多様性を読み取ることは容易いかもしいが、動態地誌的な多様性を読み取るためには、行政区分に捉われない地域スケールの設定が重要になるかもしれない。地図と系統地理学と地誌学は、地理学における三大柱である。地図を活用して、系統地理学および地誌的に地域を考察する見方・考え方は、完成された地理的な見方・考え方とは言い切れないと考える。地誌的考察の基礎部分は、中学校社会科地理において十分に学習し、高校の地理総合では系統地理学考察に偏らず、切り取る地域スケールを工夫して、動態地誌的な多様性を汲み取る仕掛けが必要となる。そこで、シリーズ地誌トピックス2^{(4)*}のように、「1. ケベック—英語の大海に浮かぶフランス語の「島」／2. 日本における韓国／3. 外国人の集まる国際観光拠点シンガポール／4. 英国のインナーシティ商店街再生と民族多様性／5. 東京の都市農業／6. オーストラリアの食肉産業／7. グレートプレーンズの資源と人々／8. フランス中央高地における過疎化と農村再編／9. アマゾンの恵みと河畔民の生活／10. ルーマニアのカルパチア山村における持続的発展／11. タイのデルタにおける自然保護とエコツーリズム／12. アフリカ農村における自給生活の崩壊と貧困、テロリズム」のように地域ごとのまとまりを自由自在に切り取って、multi-scale(マルチスケール)で検討していくことを目指したい。そして、森川(1997)で紹介されているブロートフォークルによる地域概念にあるように、「実質地域」・「活動地域」・「知覚地域」といった観点から地域を捉え直す地誌的考察を提案したい。

今回、選択履修科目である『地理探究』(全3社)の「現代世界の地誌的考察」に掲載された主題図までは分析することができなかった。今後は、『地理探究』も踏まえ

て、高校での地誌的考察のあり方を検討していきたい。さらに、高校の地理学習における地誌的考察の強化を、授業実践を通じて提案していきたいと考えている。一方で、昨今の潮流はESD(持続可能な開発のための教育／Education for Sustainable Development)としての地理の学習も必須事項である。ESDに資する地誌的考察を模索し、教材開発に結びつけていきたい。

注

*シリーズには、他にも参考文献に示した(5)と(6)がある。

引用・参考文献

- (1)浮田典良 1970. 地理学における地域のスケール—とくに農業地理学における—, 人文地理 22: 405-419.
- (2)後藤雄一 1998. 人文地理学における地域スケールと対象, 弘前大学教育学部紀要 80: 1-5.
- (3)森川 洋 1997. ドイツにおける地誌学の研究動向, 地誌研年報 6: 15-50.
- (4)矢ヶ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明編 2018. 地誌トピックス2 ローカリゼーション—地域へのこだわり—, 朝倉書店.
- (5)矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018. 地誌トピックス1 グローバリゼーション—縮小する世界—, 朝倉書店.
- (6)矢ヶ崎典隆・森島 済・横山 智編 2018. 地誌トピックス3 サステイナビリティ—地球と人類の課題—, 朝倉書店.